



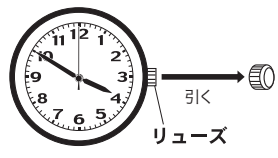
太陽光発電

ソーラーウォッチ MARSHAL

フル充電後約4ヶ月作動

取り扱い説明書

時刻の合わせ方



時刻の合わせ方

秒針が12時位置に来た時にリューズを引いてください。
リューズを回して時刻を合わせます。合わせる時刻より数分進めてから分針を逆にもどし正しい時刻に合わせます。時報サービス(TEL117)等に合わせるとリューズを押し込んでください。

ソーラー時計(太陽光発電)の機能について

充電部品交換について

本製品は、光を電気エネルギーに変えて駆動するソーラー時計です。
製品の文字盤の下のムーブメントに配置されたソーラーパネルが受けた光で発電した電力を機械回路内の充電部品に充電します。
但し、充電部品は充電を繰り返し行うことで充電容量域が減少していきます。
充電性能・稼動時間が著しく低下した段階で部品交換の為に修理お預かりが必要となりますので、お買い上げいただいた販売店、または当社時計サービスセンター宛に修理をご依頼ください。

充電時間の目安

※製品の仕様(文字盤のデザイン・色など)によって充電時間が多少異なります。
下記表は目安としてご参照ください。
充電容量が不足した時は、秒針が2秒運針します。(充電残量不足予告機能 参照)
目安の充電時間より早く秒針が通常運針に戻った場合でも機能動作に必要な充電が十分ではありません。必ず目安時間以上の充電を行ってください。
ご使用にならないときでも光の当たる場所に置き十分に充電してください。

充電時間の目安	晴天の直射日光下(屋外) およそ100,000ルクス	曇り空下(屋外) およそ10,000ルクス	明るい室内照明下 およそ700ルクス以上
フル充電量	約8時間以上	約30時間以上	※2 - -
通常仕様に必要な充電量	約1時間以上	約3時間以上	約60時間以上
1日分の充電量	約5分以上	約12分以上	約150分以上

※照度(単位:ルクス)の値はおおよその目安です。
周囲の状況等によって変化しますのでご注意ください。

重要!!

※室内で充電する際は、できるだけ時計を窓際近くに置き文字盤に日光が当たる様にしてください。
※2.室内の光量ではフル充電に必要な充電をする事が出来ません。

【時計は常に充電を心がけてください】

日常、長袖などを着用して時計に光の当たりにくい環境の方は、時計が充電不足になりやすいので、ご注意ください。
時計を外された際は、出来るだけ直射日光が当たる場所に置くことを、おすすめします。

防水について

本製品は、3気圧防水です。ご使用になる前に製品の防水機能をご確認の上、ご愛用ください。

防水区分	ケースの裏ふた または文字盤にある表示	一時的にかかる水漬(洗車・雨など)	一時的に水に浸ける	水泳や水通水などが直接かかる	ダイビング乗浴りなど
3 BAR 日常生活防水	3BAR または WATER RESIST(ANT)	○	×	×	×

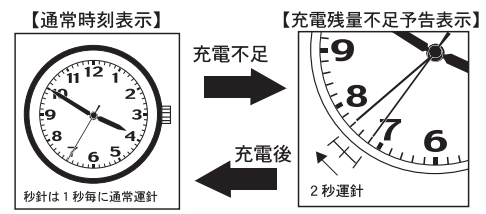
*革バンドは防水ではありません。水に濡れると劣化や変色など傷みを早めます。
*水中の、または水に濡れた状態でのリューズ操作は時計内部に水が入り故障の原因となります。

■ガラスのくもりについて

ガラスの表面に水滴がついていると、時計内部と外気との温度差により、ガラス内部にくもりが生じることがあります。すぐに消える場合は問題ありませんが、いつまでも水滴が残ると時計内部に水が侵入する場合がありますので修理が必要です。

充電残量不足予告機能について

充電不足の状態になると秒針の動きが2秒間隔で不規則に進むことで充電不足を知らせます。
※注意:2秒運針中は秒針が正常に作動していないので、時刻が若干ずれる場合があります。
秒針が2秒運針をはじめたら文字盤のソーラーパネルに光を当て充電してください。必要電圧が充電されると秒針は通常運針に戻ります。
2秒運針開始後、充電を行わない場合は約1日で秒針が停止します。



最大充電状態からの稼働時間

最大充電容量からの連続稼働時間	
フル充電後 連続稼働	約4ヶ月

※注意:充電部品は充電を繰り返し行うことで充電容量域が減少していきます。

充電上のご注意

充電の際に時計が高温になると故障の原因となります。高温下(40℃以上)になる場所で充電/保管することはお避けください。
(例)白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい光源に時計を近づけての充電、車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電。
白熱灯で充電するときは、照度も必要ですが必ず50cm以上離して、時計が高温にならない様に時々確認しながら充電を行ってください。

スライダー式バンドの調整

- 1 マイナスドライバーを金具に差し込みます。

矢印の方向から差し込む

注意 逆側からドライバーを差し込まないでください。この方向から無理に開こうとすると金具が破損します。

この方向から差し込まない
- 2 差した状態で、ドライバーを下げると金具が開きます。てこの原理です。

金具が開く

注意 必ず幅の合ったドライバーを使用してください。幅の細いドライバーでは、金具が破損する恐れがあります。

幅が合っている 幅が合っていない
- 3 バックルをスライドさせて位置を決めます。

バックル

重要:バックルの位置は、下図の様にベルトのすき間に合わせてください。

バックル裏面

ベルト側面

この線を目安にすき間を合わせる。

すき間 すき間
- 4 再度、ドライバーを金具に差し込み矢印の方向に戻します。

金具を閉じる

注意 ※すき間に合っていない位置で無理に金具を閉じないでください。破損の原因になります。 ※すき間に合わせている場合でも、金具が硬く閉じない場合は、少し金具位置をずらすなどして、閉まり易い位置で閉じてください。